

きんぽう

第108号
2026年4月発行



放送大学熊本学習センター

自然は組織に宿る 自然が作る“形”の不思議

放送大学熊本学習センター 所長 磯部 博志



本年4月より、放送大学熊本学習センター所長を仰せつかりました磯部と申します。微力ながら、皆さまの学びが一層充実したものとなりますよう努力して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

私はこれまで、地球を含む太陽系の天体を形作っている固体の物質、端的に言いますと鉱物が、どのような環境でどのように変化し、どんな種類や形の鉱物ができるのか、また、その過程を通じて鉱物が環境にどのような影響を与えるかについて研究してきました。鉱物は、無限に多様な、時には極めて興味深い形と組織で存在しています。鉱物ができる速さは様々で、極めてゆっくりと進むものもあれば、ごく短時間で終わるものもあります。さらに、反応が完全に進まずに、途中で止まってしまうこともあります。

それら多様な現象は、そのまま天然の鉱物のさまざまな形と組織につながっています。そこには、自然が作る“形”の不思議が隠されています。私は、鉱物ができてきた過程を明らかとするため、実験室での再現を試みたり、いろいろな条件でできた天然の鉱物の観察、分析を行ってきました。

図は、流れ星として地球に落ちてきた物質を再現す

る実験によって生成した粒子の電子顕微鏡写真です。

1秒程度のごく短時間だけ加熱され、溶融して球状となったのちに急冷された粒子の表面には、特徴的な放射状を示す磁鉄鉱(砂鉄と同じ鉱物です)の結晶ができています。また、内部に磁鉄鉱やかんらん石という鉱物が枝状の結晶として成長した粒子もあります。これらは、結晶の成長と組織形成がどのような現象によって支配されているかについて、重要な情報を与えてくれます。さらに、地球に降り注ぐ惑星物質が、過去や現在の地球環境と互いにどのような影響を与えているのか、推定する手がかりともなります。鉱物の形や組織は、ミクロな原子の世界と私たちの住む世界をつなぐ様々な情報を語ってくれるのです。

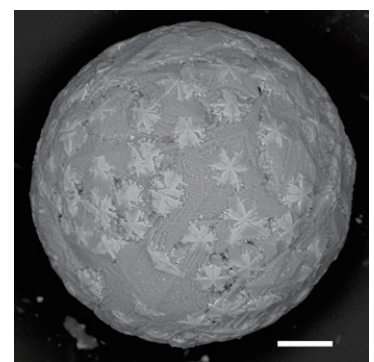


図 実験室で再現された溶融微小隕石。かんらん石樹枝状結晶集合体の表面に放射状の磁鉄鉱結晶が存在している。図の白線の長さは20μm

contents

巻頭エッセイ

「自然は組織に宿る 自然が作る“形”の不思議」……………1
 退任のご挨拶……………2
 熊本学習センター客員教員のご挨拶……………3
 2026年度客員教員によるサブレのご案内……………5

公開講演会・学習相談について……………6
 2025年度第2学期卒業証書・学位授与式について……………7
 2025年度学習成果報告会を開催しました！……………10
 2025年度 学生研修旅行報告……………13
 事務室からのお知らせ……………14

退任のご挨拶

放送大学熊本学習センター 前所長
谷 時雄



3月末をもちまして、放送大学熊本学習センター所長を退任致しました。三年間にわたり努めさせて頂きましたことに、あらためて深く感謝申し上げます。

在任中は、多くの学生の皆さま、客員教員の先生方、そして学習センター職員の皆さまに支えられ、職務を全うすることができました。面接授業、学習相談、サブレ、各種講演会や学生交流の場など、学習センターの日々の活動は、皆さま一人ひとりのご理解とご協力によって成り立っております。誌面をお借りして、心より御礼申し上げます。

この三年間、社会状況の変化に対応しながら、対面とオンラインの双方の利点を生かした学習環境の整備に努めてまいりました。学びの形が多様化するなかで、学習センターが果たすべき役割もまた変化し広がっていることを実感致しました。それは学習センターが単なる手続きや授業の場ではなく、学習者同士が出会い、語り合い、互いに刺激を受けながら成長していく拠点であるということです。

放送大学の大きな特色は、年齢や職業、学歴を問わず、誰もが学びに挑戦できる点にあります。センターでは、初めて大学で学ぶ方も、長年の社会経験を経て新たな分野に取り組む方も、ともに机を並べて学んでおられます。その真摯な姿勢と探究心に触れるたびに、生涯学習の意義と可能性を強く感じてまいりました。皆さまの努力と成果は、センターにとって何よりの誇りであると感じています。

私自身、皆さまの学びに触発されて、昨年放送

大学に入学し、今までの専門分野(分子生物学)とは全く異なる新たな学問に挑戦しています。「いつでも、どこでも学ぶことができる」、口で言うことは簡単ですが、学びを続けることがいかに大変なことであるか、身をもって感じています。一方で、新たな学びに今までにない多くの刺激を受けています。退任後も学びを通じて本学と関わり続けられることは大きな喜びです。これからは放送大学の一学生として学習センターを応援してまいります。

四月からは新たな所長のもとで、本センターはさらに充実した歩みを続けていくことでしょう。変化の時代にあっても、「学び続ける力」を支える拠点としての使命は変わりません。今後とも本センターをご活用頂き、それぞれの目標に向かって歩みを進めて頂ければ幸いです。

結びに、これまで賜りました温かいご支援に深く感謝申し上げますとともに、皆さまのご健勝とご活躍、そして熊本学習センターの一層の発展を心より祈念し、退任のごあいさつと致します。

三年間、誠にありがとうございました。



熊本学習センター客員教員のご挨拶

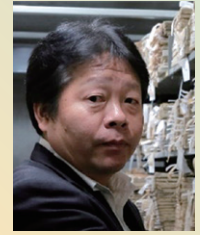
■ 退任教員挨拶 ■

熊本大学教授 稲葉 継陽

5年間の任期をまっとうし、退任を迎えるにあたり、現在進行形の研究で得られた知見を常にサブレ受講者のみなさんに披露させていただき、みなさんの反応を拝見しながら、また練り直す。そんな経験を重ねることができた幸せを、改めて感じています。

東京・永青文庫の古文書調査で未知の織田信長書状を発見し、それを核とした『織田信長文書の世界』（勉誠社、2024年）を制作したときもそうで、出来上がった本はサブレのテキストに用いました。また『熊本日日新聞』に2023年1月から翌年まで21回にわたって担当した連載「細川キリシタン群像」は、掲載されるたびにその詳細をサブレで講義し、考えをまとめることができたおかげで、本年3月に『細川家史料と史跡が伝える 近世初期キリシタンの信仰と逡巡—禁教をめぐる群像』（同上）として刊行される運びとなりました。

みなさんが年齢とともに知的探求力をますます高められ、充実した日々を送られることを祈念いたします。



熊本大学教授 慶田 勝彦

Forever Young - 学びに果てはない!! -

新型コロナ・パンデミック禍から始まった放送大学熊本学習センター（以下、本センター）での活動は、2026年3月、米国とイスラエルによるイランへの「壮絶な怒り作戦」の影響が収束しない混沌の中で終わろうとしています。21世紀は、自然災害を含め予期せぬ出来事の連続に加え、心身の変化も付随し、つい「老い」に逃げたくもなる中、まだ若かった頃に聴いたボブ・ディランの*Forever Young*がしばしば蘇ります。

「星への階段は架けられたか」、「真実を知ることではできたのか」、特に、世の中の冷たさや試練においても、「自分にとって嘘がなく、自分の勇気で立ち向かえているのか」、それも「幸せに、自分の歌を歌えているか」と問うとき、本センターで出会った多様な受講者が体現していた*Forever Young*に驚きました。

歳をいくつ重ねても、また、年齢など関係なくいつからでも「*Forever Young!!*」という、力強くも静かな日常的な学びの場が存在していたからです。このような刺激的な場所への参加機会を得られたことに深く感謝しています。みなさま、お互いに「学びに果てはない!!」という本センターのスピリッツを宿し、自分の*Forever Young*を歌い続けましょう！



熊本大学教授 小池 ウルスラ ヘレナ

このたび、放送大学熊本学習センターの客員教授を退職することとなりました。

「遠い世界」ともいえるドイツ語圏の歴史・文化について、学習相談、サブレ、公開講演会や集中講義などを通じて五年間にわたり担当させていただきました。

振り返りますと、この五年間、ドイツ語圏の社会は、いくつかの大きな変化がありました。温暖化をはじめとする環境問題の深刻化、高齢化への対応と移民政策の見直し、多文化化と言語的多様性の進展、そして政治的分断やポピュリズムの拡大などが挙げられます。

さらに、旧来の世界秩序の揺らぎさえ指摘される時代となりました。

しかし、現在のグローバルな問題は、決して突然生まれたものではありません。歴史を知らなければ、私たちは「今」という現象しか見ることができません。歴史を学ぶことによって初めて、「なぜ今こうなっているのか」という因果の連なりが見えてくるのだと思います。

この五年間の授業を通して、学生の皆さんが過去に目を向け、そこから現代の課題を読み解く力を少しでも伸ばすお手伝いできていたなら、これに勝る喜びはありません。

これまで温かく支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。



■ 退任教員挨拶 ■

熊本大学教授

大河内 彩子

熊本の皆様とともに、発達障害をテーマに学びを深められたことは、かけがえのない経験です。

科目やサブレ、学習相談での対話に支えられました。心より感謝申し上げます。



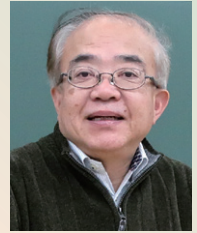
■ 新任教員挨拶 ■

熊本大学教授

三澤 純

歴史学、特に日本の近世・近代移行期における民政について研究しています。

2025年6月に上梓した『幕末維新时期民衆の自治と運動』では、熊本藩領をフィールドとして、惣庄屋を核とする地方役人層が重層的な合議を積み重ねながら、民政を遂行していく実態を描きました。彼らは、領主権力支配の忠実な実践者でありましたが、私は、その領主支配が地域社会の秩序を混乱させる事態に立ち至った場合、彼らが痛烈な藩政批判を行い、かつ対案としての政策提言を積極的に行う存在であることに注目しました。強い責任感に裏付けられた、彼らの行動は、政治への不信感が蔓延している現代社会においても、学ぶべき点が多いと感じています。今後も、「自治」と「運動」の最前線に立ち続けた彼らを主人公として、民政の視点から明治維新を問い直したいと考えています。最近、ある依頼を受けて、「行き倒れ人」の研究を始め、これにのめり込み始めています。「ボトムアップの歴史」に関心のある方は、気軽に話しかけてください。



熊本大学准教授

日高 愛子

『古今和歌集』仮名序に「やまとうたは、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける」とあるように、和歌は三十一文字で人の心や自然を豊かに表現する文学です。古の人々は、動乱のなかにあっても、自然や人の世を和歌に詠み、願いや祈りを託してきました。和歌を詠む営為の意味と、「敷島の道」と呼ばれる和歌の伝統の継承について明らかにするため、公家の歌学を中心に研究しています。

熊本は、古今伝授で知られる細川幽斎ゆかりの地でもあり、古典の伝統が今も息づき、中央と地方の文化交流を物語る貴重な資料も数多く残されています。古典は決して過去の遺物ではなく、現代を生きる私たちの心とも深くつながっています。古典の鑑賞を通して、古の人々が何を思い、どのように生きてきたのかをたどりながら、普遍的な人間のあり方について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



熊本大学講師

シムズ ランダー ブライアント

熊本大学にて講師を務めており、異文化コミュニケーション、グローバル教育、体験型学習を中心に教育・研究を行っています。文化的背景の異なる人々と関わるために必要な気づきや技能、自信を学生が身につけられるよう、実践的な学びを重視しています。

授業内外では、地域社会や留学生、海外の教育機関をつなぐ取り組みにも関わっています。こうした経験を通して、学生が自分自身をより広いグローバルコミュニティの一員として捉え、言語を単なる手段ではなく、新しい視点を開き可能性を広げるものとして考えてほしいと思っています。

国際的なつながりが当たり前となった現代において、文化の違いを理解し対話できる力は生涯にわたり重要な技能です。授業では、自分の考えを振り返りながら、異文化コミュニケーションを実践的に学べる環境づくりを大切にしています。



2026年度 客員教員によるサブレのご案内

「サブレ」とは、放送授業などのメインの授業にプラスして、生涯学習を補完するサブレクチャーの略です。放送授業や面接授業と違い、少人数で教員を囲みながら、各教員の専門分野をテーマに行われています。年齢や性別も異なる学生のみなさんが、客員教員のもと、テーマをより深く、毎回楽しく学んでいます。試験や成績判定はありません。熊本学習センターの在学学生であれば、どなたでも無料で参加できます。

4月から、磯部所長、三澤先生、日高先生、ランダー先生、4名の新任教員によるサブレも始まります。

| 客員教員・専門分野 | 令和8年度サブレ概要 |
|---------------------------------------|--|
| 磯部 博志 所長 鉱物学・地球惑星物質科学 | 人類が暮らすこの地球とは、この宇宙の大きさと時間の広がりの中で、どのような惑星なのでしょう。急速に明らかとなってきた太陽系の各惑星、さらに太陽系の外に存在する惑星との比較を通して考えてみましょう。 |
| 古賀 香代子 先生 臨床心理学 | 心理学をどう日常に役立てるのか、一緒に考えましょう。毎日の生活のなかで起きてくる出来事、ささいな日常のこと、大きな事件や事故、心理学の視点で説明をし、心理学の知識を深めていきます。 |
| 藤中 隆久 先生 臨床心理学 | 人の心がどのように作られてゆくの、また、人の心がどのようにして時代を作ってゆくの、心理学や社会学の理論をもとに話し合いを通し解明してゆきましょう。話し合いをしたい人が参加してください。 |
| 藤本 斉 先生 物理化学、分子科学 | 色の原因となっている化学物質や科学現象について毎回一つのテーマに絞って解説していきます。また、身の回りに潜む危険なものから回避する術についても考えてみます。 |
| 三澤 純 先生 歴史学(日本史学) | 現在、日本近世史・近代史の分野では、行旅難渋者、いわゆる「行き倒れ人」の研究が盛んに行われています。各地の役所の公文書には、名もなき庶民が、どのような目的で旅に出て、どのような困難に遭遇して、旅先で行き倒れてしまったのかが分かる史料が残されています。私が2026年2月に発表した論文をもとに、こうした研究の成果を紹介します。テキスト：三澤純「熊本県庁文書『公文類纂』に見る明治初年の『行き倒れ』史料—ハンセン病患者の本妙寺・加藤社参詣関係文書を中心に—」(『部落問題研究』第256輯) |
| 久保田 真一郎 先生 情報通信・学習支援システム | 「こんなアプリがあったらいいな」という身近な思いつきから出発し、生成AIを使いながらアプリ開発を体験します。完成を目指すというよりも、企画・設計・実装までの流れで、アイデアがどのように形になっていくのかを体験しながら学ぶ演習形式で行います。パソコンとGoogleアカウントが必要です。 |
| 日高 愛子 先生 日本古典文学 | 古典籍の種類とその見方について分かりやすく解説します。江戸時代の絵入版本を用いて、くずし字を実際に読みながら、古典の表現世界を鑑賞し、その享受史についても一緒に学んでいきます。 |
| シムズ ランダー ブライアント 先生 教育技術 | 異文化コミュニケーションを実践的に学びます。体験型学習と内省活動を通して文化理解を深め、異なる背景をもつ人々と対話し協働できる力を段階的に身につけ、日常や学習、将来の場面で活用できる基礎を養います。 |

久保田先生のサブレは対面・BYOD方式で行います。学生の皆さんは、各自ノートパソコンとACアダプタを持参してください。インターネット接続が必要ですので、システムWAKABAから学習センター無線LAN利用の申請を完了して参加して下さい。 ※無線LAN利用申請には、事前に情報セキュリティ研修(50分)を必ず受講、そのあと行われる小テストに合格する必要がありますので、ご注意ください。

BYOD方式：自分用パソコン持込方式

サブレの申込方法

- ①熊本学習センターウェブサイトの[サブレ・学習相談]を確認してください。毎月20日前後を目途に予定を掲載しています。
- ②ウェブサイト内の[お申込みフォーム]からお申し込みください。



サブレ・学習相談ウェブページ
QRコード

公開講演会・学習相談について

熊本学習センターでは、一般の方に対し大学教育の機会をご提供するため、当学習センター所属の客員教員による公開講演会を次のとおり開催します。

- 時間 13:30～15:00 (開場13:00)
- 会場 熊本学習センター3階 大講義室
- 定員 60名(事前申し込み制)



公開講演会ウェブサイト
QRコード

申込方法

放送大学熊本学習センター公開講演会ウェブサイト、各演題リンク先のお申し込みフォームからご予約下さい。

| 開催日 | 演題 | 講師 |
|----------|--|--|
| 6/28(日) | 肥後の和歌 - 伝統を受け継いだ人々 - | 日高 愛子先生 (日本古典文学) 熊本大学 准教授 |
| 7/26(日) | 心を育てる学校教育 | 藤中 隆久先生 (臨床心理学) 熊本大学 教授 |
| 8/29(土) | 原子を繋ぎ止めるもの - 化学結合って何だろう? - | 藤本 斉先生 (物理化学・分子科学) 前 熊本大学 教授 |
| 10/10(土) | ヒップホップ:ストリートから世界へ | シムズ ランダー ブライアント先生 (教育技術) 熊本大学 講師 |
| 11/29(日) | 生成AIで何をどこまで できるようになったか? いっしょに体験しましょう | 久保田 真一郎先生 (情報通信・学習支援システム) 熊本大学 准教授 |
| 1/30(土) | 往還と舟運による地域運営 - 小さな眼鏡橋から見えてくる物語 - | 三澤 純先生 (日本史学) 熊本大学 教授 |
| 2/20(土) | 心の不思議な世界 ～心理学を学びたいあなたへ～ | 古賀 香代子先生 (臨床心理学) 九州ルーテル学院大学 教授 |

客員教員による学習相談

- ・客員教員の専門分野に関するご相談が可能です。学習や研究をする上で、専門の先生の意見を参考にしたいときは、客員教員の先生に質問・相談をしてみましょう。
- ・相談時間は、原則として30分です。相談・質問の要点をまとめてから臨むようにしましょう。

※電話でのご相談もできます。熊本学習センターウェブサイトの[サブレ・学習相談]から希望する先生の担当日程を確認し、ウェブページ内の[お申込みフォーム]からお申し込みください。調整の上、学習センターより日程をご連絡いたします。



サブレ・学習相談ウェブサイト
QRコード

2025年度第2学期卒業証書・学位記授与式について

2026年3月21日(土)に、「2025年度第2学期卒業証書・学位記授与式」を行いました。当日は教養学部12名の卒業生が出席され、谷所長よりお一人ずつに学位記が授与されました。



2025年度 第2学期卒業生

(教養学部)

| | |
|----------|-----|
| 生活と福祉コース | 2名 |
| 心理と教育コース | 14名 |
| 社会と産業コース | 3名 |
| 人間と文化コース | 4名 |
| 情報コース | 4名 |
| 自然と環境コース | 1名 |
| (合計 28名) | |



所長祝辞



答辞：卒業生代表の前田さん

卒業生からのコメント

このたび卒業生の方々からコメントをお寄せいただきましたので、謹んで掲載させていただきます。卒業生の皆さまの今後のご活躍を心から祈念申し上げます。

柄本さん

科目履修生、専科履修生を経て全科履修生として入学し、15年半をかけて無事に卒業の日を迎えることができました。在学中には、熊本地震やコロナ禍などの困難もありましたが、放送大学の柔軟な学びの環境に支えられ、最終的に124単位を修得することができました。多くの科目を履修しましたが、なかでも宇宙に関する科目は特に印象深く、毎回ワクワクしながら授業を受けていたことを思い出します。最終学歴が「放送大学卒」となることに誇りを持ち、これからの人生においても、さらに精進していきたいと思います。

辛島さん

家庭と仕事の合間で学習を進めることは大変でしたが、一步ずつ積み重ねた日々が、確かな自信と新たな学習への原動力になりました。これからも学習をやめることなく、続けていきたいと思っています。

坂本さん

4年間大変お世話になりました。

仕事と勉強の両立は大変でしたが、仲間がいたので最後まで頑張ることができました。学んだことをこれからの仕事や人生に活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

佐藤さん

あきらめないで一つ一つやっていく。

長谷川さん

目標としていた学位を無事取得することができ、とても嬉しく存じます。また卒業研究を履修し、学習成果発表会で発表できたことは、とてもよい思い出となりました。ありがとうございました。

A・Kさん

高卒で就職したが人間関係により働くことが怖くなったがもう一度社会復帰をしたいと考え、大卒資格を得て選択肢を増やしつつ、向いている仕事を探すのに放送大学はとても私に向いていた。今では卒業後の就職試験に向けて勉強しているが、前向きに自分の未来を検討できるようになったきっかけの1つでもある放送大学には感謝申し上げます。

N・Hさん

様々な分野が学べたので、とても良かった。大学卒業後ものんびり頑張りたい。

A・Sさん

昨年は認定心理士を取得し、今年は卒論に取り組みました。3年次編入してから4年間、有意義で充実した時間を過ごすことができました。古賀先生には私の拙い卒論に最後まで丁寧なご指導を頂き心より感謝申し上げます。所長をはじめ事務局の方には本当に色々と相談に乗って頂きました。大変お世話になりました。私が学習を進める事が出来たのは皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

Y・Kさん

仕事や日常と両立しながら学ぶ中で、多くの気づきと成長を得ることができました。支えてくださった皆さまに心より感謝申し上げます。

今後も学ぶ姿勢を大切にしながら歩んでいきたいと思っています。

T・Sさん

放送授業もオンライン授業も試験も全て、自宅でインターネットを介して受けられたため、仕事をしながら卒業資格を得ることができた。

学位記授与式 答辞

穏やかな春の光に包まれ、春の訪れを感じる季節となりました。このような麗らかな春の日に学位記授与式を設けていただきますことに、まずは、卒業生を代表いたしまして、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

さて、私が2021年春に「教養学部・心理と教育コース」3年次に編入学しましたきっかけは、現在携わっている仕事への理解をより深めたいという思いからでした。学びを進める中で、実務に必要な知識だけでなく、物事を多角的に捉える視点や、学び続けることの大切さを改めて実感いたしました。放送大学での学びの中でも特に印象深かったのは、本部で行われた心理実習・演習です。そこでは、心理学に深い関心を寄せ、熱心に学ぶさまざまな年齢層の学生の皆さんと出会うことができました。背景の異なる仲間がそれぞれの経験を持ち寄りながら真剣に学びあう姿は、私にとって大きな刺激となりました。また、高名な先生方から直接ご指導いただき、心理職が実際に働く現場を見学する機会にも恵まれました。教科書で学んだ知識が現場でどのように息づき、人の支援に結びついているのかを目の当たりし、学びが実践へとつながる手ごたえを強く感じました。この経験は、現在の仕事への理解を深めたいという思いから始めた学び直しに、確かな方向性と深い意味を与えてくれました。放送大学での学びは、私にとって知識を得る場であると同時に、自分自身の在り方を見つめなおす貴重な時間でもありました。多様な背景をもつ仲間と共に学び、先生方から温かいご指導をいただく中で、学ぶことの喜びと奥深さを改めて実感いたしました。こうした経験は、今後心理職として歩んでいくうえで、揺るぎない支えとなるものだと感じております。

卒業後は、放送大学で培った学びを土台として、心理職としての実践に一層力を尽くしていきたいと考えております。これまでの学び直しを通して、理論と実践が結びつく瞬間の手ごたえや、人と向き合う姿勢の大切さを深く実感いたしました。今後は、その学びを現場で生かしながら、より専門性を高めるために大学院への進学も視野に入れております。放送大学で出会った多様な仲間や、心理実習で触れた現場の息づかいは、私に「学び続けることの意味」を教えてくださいました。これからも、人の心に寄り添う支援者として成長し続けるために、学びを止めることなく歩みを進めてまいります。

終わりに、本日まで温かいご支援を賜りました学習センターの皆様、ご臨席いただきましたご来賓の皆様、心より御礼申し上げます。放送大学の益々のご発展と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

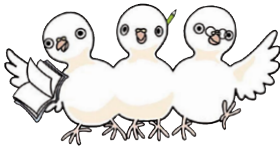
令和8年3月21日
熊本学習センター 卒業生代表
前田 さん

2025年度学習成果報告会を開催しました!

令和8年2月28日(土) 熊本学習センター 3F大講義室にて、「2025年度学習成果報告会」を開催いたしました。

当日は、4名の方に発表していただき、発表後には客員教授の慶田先生、古賀先生より講評をいただきました。

報告会には27名の方が参加され、それぞれの発表後質疑応答があり、参加者の学習に対する関心度の高さがうかがえました。また、今後の学習、卒業研究などの参考になったと、大変好評をいただきました。



また、今後の学習、卒業研究などの参考になったと、大変好評をいただきました。



「大学院のすすめ」

大学院修士課程 臨床心理学プログラム修了 大木さん

放送大学の大学院臨床心理学プログラムの受験を決意したのは、県内で大きな水害が発生した後だった。放送局で報道記者として働き、被災者のインタビューも経験してきたが、報道記者という肩書きがない立場で被災者と向き合った時に、傷ついた人々にかかる言葉を持たない自分を思い知ったからである。

私は取材を通じて、言葉で表現することが苦手な方々と知り合い、その豊かな内的世界を言葉以外の方法で感知することができないものかと願ってきた。今思えば、その方々とのコミュニケーションが、私の背中を押したのかもしれない。熊本地震の報道で、心のケアという言葉が度々ニュースにしてきたことも影響したのかもしれない。これまでの経験が私を導き、臨床心理士として困難を抱えた人々と関わる道へと誘ったのではないかと思うようになった。

ずいぶん前に卒業した大学ではキャンパスライフを謳歌した。勉強は単位を落とさないためのものであった。そこに学問という意識はなかった。そんな私にとって大学院は異世界だった。自分のテーマを探求するには、井戸のように深く深く掘っていかなければならない。さらに進もうとすると迷子になりどこにいるのかわからなくなる。指導の先生が小さな灯火で足元を照らしてくださり、ようやくわずかな光に辿り着くのである。学問という海の深さを知る一方で、その海原の広さに心が躍る経験もした。学問と向き合い、研究と修論に苦闘した2年間はまさに未知との遭遇、苦しくも楽しい日々だった。

ところで、大学院への進学のかっけとなった傷ついた人にかかる言葉は見つかったのかどうか。それはまだ見つかっていない。大学院を修了したからといって何かが変わったわけでもない。私の学習成果は「わかっていない自分がわかった」ことなのである。それでも傷ついた人に何ができるのか、自分のわからなさに向き合っていきたいと思うようになった。

心と向き合う仕事に正解はない。毎日出会う人たちはみんな違う。その人たちの心を支えていくには学び続けるより他に道はないと思う。

その道を共に歩む仲間がいれば心強いと思っている。

「思い出せる防災

—災害時トイレ行動を支える知識の想起構造と社会的成熟—

全科履修生 生活と福祉コース 長谷川さん

28年前に大学を中退した私は、「あらためて学習に向き合い、学位を取得したい」と思い立ち、6年前に放送大学へ入学しました。入学のきっかけは、本学卒業生である妻の助言です。当初の目標は卒業そのものであり、卒業研究の履修は想定していませんでした。

水道工事の仕事に従事していた私は、2014年に災害時トイレ問題を知りました。関係当事者として「その解決に貢献したい」との思いから、2016年以降、講演活動を中心とした教育・啓発活動を続けてきました。活動当初は、先行する知見を伝えることが主でしたが、住民との対話を重ねる中で、社会的に共有されているとされる情報や前提に疑問を持つようになりました。以後、講演におけるコミュニケーションの内容や手法について、独自に試行錯誤を続けています。こうした実践を今後も継続するためには、その土台となる実態を科学的に検証する必要があるという考えに至り、当初は想定していなかった卒業研究を履修することにしました。

本研究では、災害時トイレ問題が繰り返し顕在化する背景の一端として、行政・専門家と住民との間のリスクコミュニケーションに着目しました。携帯・簡易トイレ備蓄の促しというメッセージが期待どおりの行動につながらないのは、受信者である住民の意識との齟齬があるのではないかと仮説を立てました。

共同研究者からの研究費の支援のおかげで大規模な調査を実施できたことは大きな成果でした。貴重な調査データは今後の研究に大いに繋がります。一方、分析および論文執筆の過程で、指導を十分に仰ぐことができず、論理に飛躍があり仮説の補強に留まる結果となりました。仕事との兼ね合いでゼミに十分参加できなかったこと、検討と推敲に十分な時間を確保できなかったことが悔やまれます。テーマ自体も難度が高く、力量不足を痛感する結果となりましたが、それも含めて、研究の厳しさと面白さを実感できたのは履修したからこそです。全科履修生には、卒業研究への挑戦を強くおすすめします。


卒業研究ガイダンス及び修士全科生入学希望者ガイダンス開催について

2026年度は、放送大学本部主催により、卒業研究ガイダンスおよび修士全科生入学希望者向けガイダンスを開催する予定です。ガイダンスは、Zoom等のウェブ会議システムを使用して実施いたします。

実施日程や詳細につきましては、4月以降に【システムWAKABAの学内連絡】または【大学本部のウェブサイト】にて公開いたします。

※熊本学習センターでのガイダンスは実施いたしませんので、あらかじめご了承ください。

履修希望および大学院入学希望に関するお問い合わせは、下記専用窓口へお問い合わせください。

| | 卒業研究 | 修士全科生(大学院) |
|--------------|--|--|
| ガイダンスのお知らせ ▶ | システムWAKABA ▶学内連絡 | 大学本部 ウェブサイト  |
| 問い合わせ専用窓口 ▶ | Email : in-nyushi@ouj.ac.jp | Email : shugaku-ka@ouj.ac.jp |

「私の放送大学の学び方・楽しみ方2025」

全科履修生 人間と文化コース 本田さん

私が放送大学に入学したのは、2013年。臨床心理士を目指して大学院の修士選科生として入学したのですが、基礎的な心理学の素養の不足を痛感したので、2015年に教養学部の全科履修生(心理と教育コース)に入学し直しました。放送授業では、「心理カウンセリング序説」、「認知行動療法」など、面接授業では、「心理学実験」などを履修し、日本心理学会の「認定心理士」を取得しました。

そして、2017年には「卒業研究」にも挑戦しました。4月から10月まで毎月1回、「学習相談」を利用して学習センターの客員教授に1対1で指導を受けたことは、とても貴重な経験でした。時には挫けそうになりながらも、ついに2万4千字の論文を書き上げた達成感は何ものにも代えがたいものであり、人生の記念碑となりました。心理と教育コースを卒業した後は、生活と福祉コースを卒業、現在は、人間と文化コースにおいて学びを続けています。また学習センターでの「サブレ」(サブレクチャー=「面接学習」)も学びが大きいものです。これは、学習センターの客員教授による日本史、臨床心理学、生物学などバラエティに富む講義。単位は取れませんが無料で受講できます。私は都合がつく限り受講しています。

そして、「学生研修旅行」(毎年秋の日帰りバス旅行)にも参加しています。机の上ではできない学びがあり、学友たちと親睦ができる機会でもあります。さらに、学びの傍らの楽しみは、サークル活動です。2015年に「合唱愛好会」を創立し、学習センターの文化祭出演のほか、2019年にはNHKホールでの学位記授与式において、ベートーベンの「第九」を歌いました。現在は、2025年3月から「短歌クラブ」を毎月1回開催し、短歌を学び、作って、お互いに鑑賞して楽しんでいます。

通信制の大学とはいえ、学習センターに来れば、このようにいろいろな学びや楽しみもあり、学友たちとの交流によって多くの刺激を受けることができます。私にとって学習センターは、とても貴重な居場所になりました。今後も、できる限り学習センターに通い、学びと楽しみを続けたいと思っています。

いつも親切に支えて下さる学習センターの客員教授や職員の皆さんに深く感謝しています。

「幕末の漂流者 原田庄蔵の悲劇と再生」

全科履修生 自然と環境コース 伊藤さん

江戸時代、肥後川尻は年貢米20万俵を扱うなど水運の中心地として栄えた。

この地に生まれ育ち、廻船業を営んでいた28歳の原田庄蔵は、両親妻子を残したまま、天草から戻る途中大風に遭い35日間漂流、フィリピンに漂着したのち、中国マカオに送られた。庄蔵を含む日本人漂流者7名は、アメリカのモリソン号でマカオから日本へ送り届けられるも、1825年に出された「異国船打払令」によって、浦賀沖と薩摩で砲撃され帰国を断念する。

庄蔵はマカオで宣教師の世話になりながら、日本語を教え、聖書マタイ伝の日本語翻訳に協力した。また肥後川尻の父親宛に手紙を書き、それは2年半後奇跡的に届けられた。漂流史において、本人が直接書いた手紙が届けられたのは稀有な事例である。しかもこの手紙は長崎奉行所を通して江戸幕府にも送られ、「異国船打払令」の撤廃に影響を与えたと言われる。

その後庄蔵は香港へ移り、仕立業・洗濯業で成功し自立している。彼が後の日本人漂流者たちの帰国に骨身を惜しまず尽力したことは、帰還した漂流者たちの報告によって知ることができる。

さらには、彼が日本語を教えた宣教師は、ペリー来航の際、アメリカ側の通訳として活動している。日本の開国史において、庄蔵の果たした役割は少なからずあったと思われる。それにも関わらず、これまで川尻では庄蔵の家すら不明であった。ところが最近、熊本大学名誉教授岩岡中正氏の研究によって、新たな光が当てられることになった。

本発表では、苦難の中たくましく生き抜いた庄蔵の人物像を描き出すとともに、彼の知性を育んだ郷土川尻や、自己犠牲的精神とキリスト教の関係についても触れたい。

2025年度 学生研修旅行報告

2025年10月11日(土)、24名の学生と職員4名で、有田焼の産地である佐賀県有田町と温泉で有名な武雄市へ行ってきました。有田焼幸楽窯のファクトリーツアーでは製作工程の説明を受け、各工程での熟練の職人による実演を見学することで、伝統技術の高さと受け継がれる職人の精神に触れることができました。見学後、工場内のショップでお土産を買われる参加者の方が多く、いい思い出の品を手にした喜びが伝わってきました。昼食は、地元食材をふんだんに使った料理を堪能し、参加者同士でおしゃべりに花を咲かせて楽しいランチタイムになりました。午後は、武雄神社を参拝し、敷地内にある樹齢3000年といわれる大楠を見学。歴史と自然に包まれた静かな環境の中で心を整える時間を持つことができました。参加者の方々からいただいたレポート、感想の一部をご紹介します。ご参加ありがとうございました！



川口さん

お陰様で楽しく有意義な半日を、過ごすことができました。有田町の幸楽窯の窯元見学で、丁寧に機知に富んだ社員の方の説明を聞くことができ、磁器が多く先の先人の知恵・工夫をもとに、分業で一つ一つ手作りされていることを認識いたしました。不本意ながら連行されつつも、技術を伝えていただいた16世紀末からの韓国の方々のご苦勞には改めて感謝するところです。香合と醤油さしを土産に購入しました。来年もぜひ参加したいと考えています。

平本さん

有田焼の製作で、技術や道具の進歩によって製法は徐々に変化してきましたが、成形、施釉、絵付、焼成などの各分野で、スペシャリストの人達が伝統の技法を継承しつつそれぞれの工程を担っていて、有田焼の奥深さがあり、すごく勉強になりました。有田焼の見方がかわってきました。自分自身も頑張らねばと思いました。ありがとうございました。

本田さん

有田の幸楽窯では、職人さんたちの名人芸に感嘆し、昼食では皆さんと歓談しながら「ありたどり御膳」に舌鼓を打ち、武雄神社では御神木の「武雄の大楠」を仰いで静かに祈った。さらに、家族への土産も購入できた。今回も素晴らしい企画を立てて下さった学習センターの皆さんに感謝である。

(短歌)

秋空のもとに佐賀へのバス旅行
日頃の憂さが消えるひととき

増田さん

改めて有田焼の歴史や技術に触れて、日本古来受け継がれている良きものは、本当に素晴らしいと感動しました。産業分野では社会の変化とともに生産量や労働力が減少する中、新たな挑戦とアイデアでグローバルな視点も取り入れておられる姿が印象的でした。一目惚れして購入した有田焼ティポットでお茶を入れる時間が豊かになりそうです。

「学び舎の 友と巡りて 秋の空
有田の彩に 笑みこぼれたり」

事務室からのお知らせ

■ 自然災害等発生時の熊本学習センターからのお知らせについて

豪雨、洪水、暴風等の発生時における熊本学習センターの臨時閉所等の情報提供については、以下の方法で行います。

- ① 熊本学習センターウェブサイトへの掲載
- ② システムWAKABA「学内連絡」への掲載
- ③ 熊本学習センター事務室へお問い合わせ（電話またはメール）

また、熊本学習センターウェブサイト
(<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/kumamoto/>)では、
臨時閉所情報や様々な情報をお知らせしています。



熊本学習センター
ウェブサイトQRコード

■ 「学生生活の栞」について

2026年度第1学期から、『学生生活の栞』はWeb閲覧形式になります。

(紙媒体の配布は終了いたします。)各自Webサイトで閲覧下さい。

ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

※「学生生活の栞」および「システムWAKABA」についての簡単な案内を掲載した
リーフレット「学生生活かんたんガイド」を印刷教材に同梱しております。

あわせてご覧ください。



学生生活の栞
QRコード

■ 学生証の窓口での受け取りは事前予約制です。

学生証の窓口受け取りは**予約制**です。前日までに申し込みフォームでお申し込みの上、

来所してください。郵送受け取りについてはウェブサイトをご確認ください。

予約なしで来所された場合は、発行までにお時間をいただきます。ご了承ください。



学生証のお受け取りについて
QRコード

■ キャンパスメールを確認してください！

大学からの修学関連（授業、試験、科目登録等）のお知らせは、学生皆さんのキャンパスメールに送られています。

重要なお知らせもありますので、定期的にシステムWAKABAからキャンパスメールを確認するようにしてください。

システムWAKABA→キャンパスメールから確認できます。

※キャンパスメールアドレスは、入学と同時に学生全員に付与されています。



メールアドレス

自分の学生番号@campus.ouj.ac.jp

ハイフンなし・数字のみ

キャンパスメールに届いたメールを普段ご利用のメール
アドレスへ自動転送できます！

詳しくはシステムWAKABAの

キャンパスライフ→附属施設・情報システムをご覧ください。

■ 給茶機撤去のお知らせ

リフレッシュルームの給茶機は、機器の老朽化が進み、今後も維持する上では経費面や管理面での負担が大きいことから、令和8年3月末をもって撤去することとしました。ご不便をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

最新の情報は、熊本学習センターウェブサイト「センタースケジュール」をご確認ください。

 **放送大学** 熊本学習センター
きんぼう 第108号 2026年4月発行

〒860-0862

熊本市中央区黒髪2丁目40番1号(熊本大学附属図書館南棟2F)

TEL:096-341-0860

MAIL:sc-kuma@ouj.ac.jp

